

2010年 NPO法人民間稲作研究所

公開シンポのご案内

戦後初の本格的な政権交代として多くの国民が期待を寄せた鳩山政権も、日本の未来像を描けないまま年を越してしまいました。公開による事業仕分けという斬新的手法をとりながら、極めて乱暴な近視眼的判定を下す政策評価によって、誕生したばかりの有機農業モデルタウンづくりが廃止になり、関係者は啞然としたことと思います。

NPO法人全国有機農業推進協議会を中心に、消費者団体の支援も得て復活の働きかけをしてきました。その結果、モデルタウン事業は「収益力向上対策事業」として復活し、採択枠も多くなることとなりましたが、喜んでいる訳にはまいりません。そのひとつは事業決定の過程で有機農業者への相談が全くなかったこと。先に決めた「有機農業推進計画」から乖離し、有機農業を専ら利益獲得の手段とするような施策に矮小化したことです。私たちがめざしたのは有機農業の推進によって日本の農業の未来を「いのち」を大切にす農業として再建することでした。

今回の総会ではそうした政治の現状も踏まえ、特別講演として日本農業の未来像をどう描くかを語って頂くこととしました。第1部は、有機稲作の技術問題について、公的機関との共同研究が取り組まれました。その成果を発表していただくとともに、水田の生物多様性を活用した抑草技術をはじめ、育苗技術、循環型の肥培管理技術の現状、麦・大豆を含めた耕種作物の有機栽培について、各地域からの報告を頂き、疑問や栽培上の悩みについて分科会形式でじっくり意見を交換したいと思います。

第2部では10月に名古屋で開催される生物多様性締約国会議に向けた取り組みの一環として兵庫県豊岡市で開催される第11回日韓中環境創造型稲作技術国際会議(第1回生物多様性を育む農業国際会議)の持ち方を中心に有機農業の環境創造機能について報告を受け、生物の多様性を回復するうえで有機農業の普及が決定的に重要であることを国際的にアピールするための共同行動について議論したいと思います。

第3部では有機農業推進法が施行されモデルタウンづくりが始まりました。その矢先事業廃止となり、変質を余儀なくされる事態となりましたが、運動の現状や問題点についてご報告いただくとともに日本農業の再建をめざした地域づくりの方向性や課題について議論を深めたいと思います。

盛り沢山な内容ですが、水田農業のあり方を探求してきた関係者の貴重な体験をご報告頂きながら親睦を深め、英気を養って頂ければ幸いです。

記

1 日 時 2010年2月20日(土)午前10:00~21日(日)午後4:00

2 会 場 コンセーレ 栃木県宇都宮市駒生 1-1-6 TEL:028-624-1417

NPO 法人 民間稲作研究所有機農業技術支援センター 上三川町下神主下原233-1

3 参加費 全日程参加 会員 20,000円 非会員 22,000円

4 締め切り 2月14日(日)期限厳守。定員になり次第締め切りと致します。

お問い合わせ・申込み先

NPO 法人 民間稲作研究所

329-526 栃木県河内郡上三川町鞘堂72

電話/ファックス 0285-53-1133

担当 稲葉光國・川俣隆

メール inaba@inasaku.or.tv

公開シンポジウムの日程と内容

第1日 2月20日(土)

12:30~13:00 受付

13:00~13:05 開会あいさつ

13:05~13:40 特別報告 政権交代と21世紀農業政策の提言 NPO 法人全国有機農業推進協議会

第I部 有機農業の技術と普及

13:40~14:10 基調報告 生物多様性を育む有機稲作の現状と課題 稲葉光國

14:20~17:00 公開シンポ 生産現場・研究機関におけるいのちを育む有機稲作実践研究の現状と課題
コーディネータ 館野廣幸・稲葉光國

① 新潟県農業試験場の有機農業研究の成果と課題 新潟農試(古川)

② 栃木県農業試験場における有機農業研究の成果と課題 栃農試(上岡・樋山)

各地からの報告

① 第1回生物多様性を育む農業国際会議とコウノトリを育む農法の現状と課題

兵庫県豊岡市コウノトリ共生課 成田寿道

② 新潟県における抑草技術の展開と課題 内山常蔵

③ 北関東におけるイネー麦—大豆—麦2年4作の実践 川俣文人

質疑と総合討論

17:10~19:00 分散会1 有機農業なんでも相談・交流会

①育苗技術(川俣・隅内)②抑草技術(館野・内山)③生物多様性と病害虫防除(古川・杉山)

④土づくりと循環型肥培管理(稲葉) ⑤輪作とその体系技術(伊藤・古谷)

19:00~20:30 チェックイン手続き後 夕食・懇親会(有機地ビール試飲会)

21:00~23:00 分散会2(①栽培技術②地ビールなど加工の取り組み③モデルタウン・認証問題など)

第2日目(21日)

第II部 生物多様性国家戦略と有機農業

9:00~9:30 第1回生物多様性を育む農法国際会議から生物多様性締約国会議へ 呉地正行
—豊岡からCBDへの提言活動—

9:30~10:00 有機水田と慣行水田の生き物比較調査報告 田中幸一(農環研)

10:00~11:00 報告と討論 コーデネーター 大木一俊

総合討論 生物多様性締約国会議と水田決議について

パネラー 稲葉光國・浅野正富・呉地正行・田中幸一・峯田拓也

11:30~13:00 昼食・移動

第III部 公開シンポ 有機の里づくりの課題と展望

13:00~16:00 コーデネーター 中島紀一・谷口吉光

1 特別報告 21世紀地域づくりとその政策展開 谷 博之

2 各地からの事例報告と総合討論

① かみのかわ有機農業推進協議会の取り組み —富居登美子

② 新潟笹神でのモデルタウンづくりのめざすもの —石塚美津夫

③ 岐阜県のモデルタウンづくりと研修センターのめざすもの—西尾勝治

総合討論 有機農業を核とした地域づくりと地産地消の取り組み

閉会あいさつ

申し込み書

氏名

電話

住所

交通機関 1 自家用車 2 バス・電車

参加するシンポの参加金額に○印を記入し0285-53-1133までファックスして下さい。

		20(土)			21(日)	
		技術問題 13:00~19:00	懇親会 19:00~21:00	宿泊	有機と環境 9:00~12:00	モデルタウンづくり 14:00~16:00
会員	全日程	20,000円(昼食費を含む)				
	部分参加	4000(昼食費を含む)	6000	8000	4000(昼食費を含む)	
非会員	全日程	22,000円(昼食費を含む)				
	部分参加	5000(昼食費を含む)	6000	8000	5000(昼食費を含む)	

分散会参加希望調査

分散会 1 17:00~19:00	①育苗技術	②抑草技術	③病害虫防除	④土づくり	⑤輪作体系技術
分散会 2 21:00~23:00	①栽培技術		②農産物加工	③モデルタウン・認証問題など	

コンセーレ案内図

〒320-0066 栃木県宇都宮市駒生1丁目1番6号
財団法人栃木県青年会館
TEL:028-624-1417 FAX:028-624-1843
E-mail: concere@olive.ocn.ne.jp



< 交通のご案内 >

- 東北自動車道
 - 鹿沼ICより9.5km
 - 宇都宮ICより9.0km
- JR宇都宮宇都宮駅
(路線バス コンセーレまで4.7km)
 - 関東バス「作新学院駒生」行き(⑥⑦番のりば)
 - 東中丸バス停下車(コンセーレ前)
- 交通機関料金
 - バス(JR宇都宮駅~東中丸)200円
 - タクシー(JR宇都宮駅~コンセーレ) 約1,700円